

桑

折町SDGs推進町民会議の設立総会が5月21日、イコラで開かれました。  
 総会は2部に分かれて行われ、第1部では、町民会議の設立目的や今後の事業について確認し、第2部では、ラジオパーソナリティの藤原カズヒロさんや（一社）オープンデータラボの長井英之事務局長、NPO法人ビーンズふくしまの江藤大裕さんによる特別トークセッションが行われました。藤原さんは



1 自らのSDGsへの取り組みを話す藤原カズヒロさん  
 2 トークセッションを聞く参加者

「普段何気なくやっていたことも、SDGsだと意識することで目標達成につながる」、長井さんは「ゴールを一つ明確に定めると良い」、江藤さんは「今できることを、少しずつやっていくと、世界が変わっていく」と話し、参加者はSDGsへの理解を深めました。  
 町民会議は、町における新たな価値の創造や恵まれた地域資源の継承など、より良い未来を次世代に引き継ぐことを目指し、町民や事業者に向けたSDGsの普及・啓発に取り組みすることを目的に設立されました。町では、町民会議の活動を支援するとともに、向こう10年を見据えた町の総合計画の推進にあたって、連携を強化してまいります。

誰もが安心して暮らせる社会のために  
 SDGs推進町民会議  
 設立総会



設立準備会会長  
 佐藤久仁夫さん

会長あいさつ

SDGsは、全世界で取り組むべき目標です。目標の一つひとつはとても大きな課題だと感じるかもしれませんが、皆さん一人一人の取り組みの積み重ねが達成への一番の近道だと思います。  
 町においても、全町を挙げてSDGsの取り組みを進めていきたいと考えています。誰でも参加できますので、SDGsを意識して、できるところから共に取り組んでいきましょう。

pick up



水切りバケツで生ゴミ減量

町では、家庭から出る生ゴミの減量化を図るために、水切りバケツを斡旋しています。2重構造で、生ゴミの水気を切ることができるバケツです。蓋があるので密閉も可能。  
 詳しくは、広報お知らせ版6月1日号をご確認ください。

桑折町は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

VOICE

災害ボランティア  
 愛・知・人

代表 赤池博美さん

3月16日に発生した福島県沖地震。その3日後には、町内で復旧活動を開始した災害ボランティア「愛・知・人」。その後、約2か月の間に、82件もの屋根の応急修理に携わり、被災者の生活再建に貢献されました。

遠く愛知県は春日井市に拠点を置き、約700人ものメンバーが登録している同団体の代表を務める、赤池博美さんに話を伺いました。

3月19日から桑折町に入り被災家屋の復旧に携わりました。私たちは、主に屋根の応急修理（ブルーシート掛け）や、倒れたブロック塀を運べる大きさまで崩す作業などを行っています。平日は8人ほど、週末は15人ほど、多い時で約20人のメンバーが代わる代わる活動しています。

愛・知・人には約700人のメンバーが登録されていますが、実際に被災地で復旧作業するのはその1割程度です。災害ボランティアと聞くと、復旧作業をするだけと思われがちですが、復旧作業と併せて被災された住民の皆さんとの交流や心のケアにも取り組んでいます。登録者の中には、ミュージシャンやマッサージが得意な人など、さまざまな人がいます。「できる人が、できる時に、できることを」をコンセプトに、被災者に笑顔を届けるため、地域の祭りやイベントなどへも積極的に参加しています。

できる人が、  
 できる時に、  
 できることを。



赤池博美さん

この度、町と町社会福祉協会の度、町と町社会福祉協会の度、災害時におけるボランティア活動に関する協定書を締結しました。しかし、この協定は、私たちが助けに行くためだけの協定ではありません。実用的な講習会や防災訓練といった支援などを行い、私たちのような災害ボランティアがいなくても、住民同士で助け合いながら、復旧・復興活動ができる町を目指します。今回の活動中に、若い町民の方が復旧作業に参加し、「これからも協力していきたい」と話してくれました。それぞれができることを持ち寄り、互いに助け合える町を目指していきましょう。



▲ 町での活動の様子など、詳しい情報は「愛・知・人」公式HPをご覧ください。



▲ 屋根の応急修理を行う「愛・知・人」スタッフ



▲ 懸命な支援活動による、多大なる貢献に対し、町から感謝状が贈られました